

第十一回 玄和全国競書大会優秀作品



菅井 花梨

審査所感

本年も例年通り11月23日、玄和書道会文化院にて、学生部審査員、一般部審査員計12名併せて審査補助15名合計27名の先生方で、第1次審査より第3次審査まで1日かけて実施した。本年は学生部約1700点、一般部約1000点の出品があり、一般部は若干減、学生部は約100点増という点数であった。書道人口が各書道会で減少する中、各支部長先生、会員の前向きな学習努力によって全体出品数の増加というものは、特記すべき点であろうと思う。

さて作品内容だが学生部の方は、元氣よく太く、大きい作品が多く見られ、字句の方も、月例課題はもとより夢や希望、目標とする字句が目についた。例えば「夢」「元氣」「龍馬」「響」「しんせつ」「やさしい」等。特に上位入賞者は起筆、止め、ハネの基本の筆使いがきちんと習得されており、子供ながら線に勢いを感じる。併せて名前もていねいにバランスよく書かれており、指導者の熱心な教え方

— 玄和書道会賞 —



バーナムシエラ(高一)



渡邊 翠蘭



金田莉里花(小二)



石丸 由姫(小六)

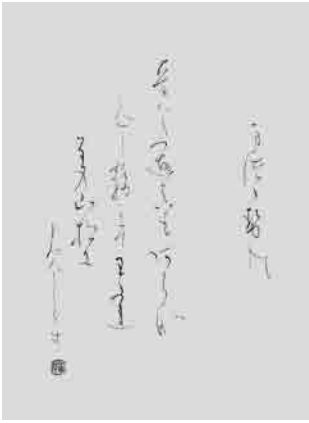


藤井航之郎(中二)

も想像できた。特に幼、1年2年生で大人顔負けの作品もあり、審査員から感動の声も多く聞かれた。高校生も臨書を中心に、よく学習されている跡が伺われ、将来を想像すると楽しくも、うれしくもなった。一般部は、行草作品を中心に、隸篆、仮名、近詩と書体書風がバラエティーに富み、書技の幅の広さを感じさせる。しかしながら、中には墨色の悪いもの、落款の不自然なもの、章法の勉強不足のものなども見られ、今後は細部に巨り研究が必要な作品もあり、残念に感じた点であった。学生部、一般部の上位入賞者に共通している事は、線のキレよく、リズムがあり変化している事、出品枚数が5枚であることなど日頃の学習成果を充分発揮しようとする意欲が見られた。

以上、簡単に私感を述べさせて頂いたが、次回展の参考になればと思う。運営に当たられた先生方、補助スタッフ、各支部長の皆様の大変な作業のご努力に感謝申し上げます。

審査員長 菅井 松雲



江部 澄峰



村山美由紀(高二)



北原加枝子



鈴木 蘭嘉



宮川ひより(小一)



永見 楽(小五)



木村 杏菜(中三)



吉田 裕一



近藤 風光



中村 秀月



寺地 真央(高二)



榎戸 愛笑(小三)



矢澤 佳音(小四)



森山 花奈(中一)